

● 歴史的背景
戦国期の天草は、天草・志岐・上津浦・栖本・大矢野のいわゆる「天草五人衆」と呼ばれる地方領主が分割統治していました。肥後南部の大名相良氏の事跡を記した「八代日記」に、1544年まで天草五人衆のうちの上津浦氏一族が棚底城に在城していたと

あります。しかし、その一族が城を降り(理由は諸説あり)ライバルであった栖本氏が占拠します。元の城主であった上津浦氏は城を取り返すために栖本・棚底方面へ出兵を重ねます。1560年の栖本城合戦の後、相良氏のあつせんで棚底城は栖本氏から上津浦氏へ返還されます。1566年には、逆に栖本氏が棚底方面を攻め、棚底を巡る争いが継続していたことが分かっています。八代日記の記録がこの年で終わっており、その後の棚底城の詳細は分かっています。

1579年には、天草五人衆は薩摩の大名島津氏に服属し、これにより天草島内での抗争が終結しました。

天草で最も高い山、倉岳からのびる尾根筋の先端に築かれた戦国時代の山城「棚底城」。この棚底城跡は、平成21年7月に市で初めての国指定史跡になりました。今号では国指定10周年を迎えた棚底城跡を紹介します。

国指定史跡 棚底城跡を紐解く

棚底城関係年表

西暦(元号)	内容
1356(延文元年)	棚底城の菩提寺と言われている大権寺に明俊禪尼石塔ができる(天草最古の紀年石造物)。
1383(永徳3年)	大権寺に夫婦石塔できる。この頃には築城か。
1532(天文元年)	天草・栖本・大矢野・志岐・長島氏が連合で上津浦城を攻める。相良氏は上津浦氏を援助。
1544(天文13年)	上津浦一族が棚底から下城する。初めて「棚底城」が記録に現れる。
1556(弘治2年)	6月 上津浦から棚底に攻めかかり「藤河柊(地名)」を破る。 11月 上津浦から棚底を攻め「さかたぬき(地名)」を破る。
1558(永禄元年)	上津浦から棚底を攻める。
1560(永禄3年)	2月 上津浦から棚底を攻める。栖本勢3人討ち取られる。 9月 島原の有馬勢の船200艘余りが上津浦に着船。上津浦・志岐・有馬・大村・松浦氏らが栖本城を攻める。天草で初めて鉄砲が使用される。 11月 相良氏の仲介で棚底は栖本氏から上津浦氏に譲られる。
1579(天正7年)	天草五人衆が出水へ行き、島津家への奉公を誓約。

棚底をめぐる抗争が繰り返された

【問い合わせ先】
文化課 ☎32-6784

Contents 主な内容

- 2 国指定史跡 棚底城跡を紐解く
- 8 全カプレーで躍動! 総合8位
～第74回熊本県民体育祭宇城地域大会～
- 10 平成30年度 決算報告
- 14 いきいき健康
- 16 暮らしの情報
- 32 Amakusan SANTA Island
～みんなで楽しもう! 冬の天草。～
- 33 海にうかぶ博物館 天草の自然通信
- 34 市民のひろば
- 36 みんなの広場
- 38 あまくさん
- 39 宝島のわだい
- 42 イベントカレンダー/天草の潮汐
- 43 休日在宅病・医院/水道修繕当番店
献血日程
- 44 勇気を持って相談を -DV・児童虐待-



人のうごき 9月30日現在

9月中の異動		※()内は前月比	
人口	79,914 (89減)	出生	42人
男	37,554 (47減)	死亡	107人
女	42,360 (42減)	転入	100人
世帯数	36,955 (6減)	転出	124人

問い合わせ先	
本 庁	天草市役所 ☎23-1111 〒863-8631 天草市東浜町8番1号
支 所	牛 深 ☎73-2111・有 明 ☎53-1111 御所浦 ☎67-2111・倉 岳 ☎64-3111 栖 本 ☎66-3111・新 和 ☎46-2111 五 和 ☎32-1111・天 草 ☎42-1111 河 浦 ☎76-1111

棚底城跡から出土した遺物



▲茶臼



▲基石



▲ベトナム産青花碗



▲熱を受けた陶磁器の破片。焼き討ちにあった可能性も



▲第1次発掘調査でI郭から見つかった柱の穴



棚底城ってどんな城？
 棚底城跡は、東西約340mの規模で標高約90mのI郭からVIII郭まで曲輪が連続しています。I郭北には三重の堀と土塁が残り、数ある天草の山城の中で特に重厚な防御施設を誇る城です。

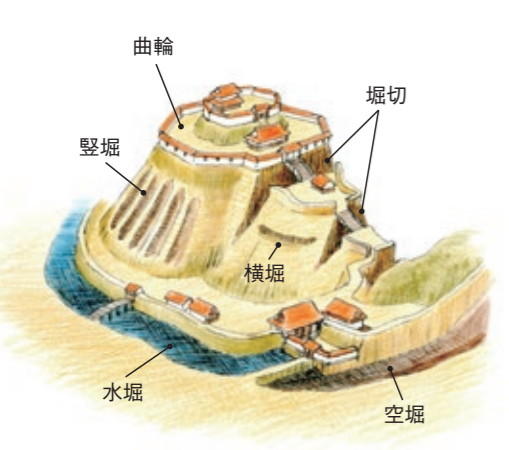
▲第1次発掘調査時に撮影（平成14年度）

上津浦氏と栖本氏の抗争の舞台

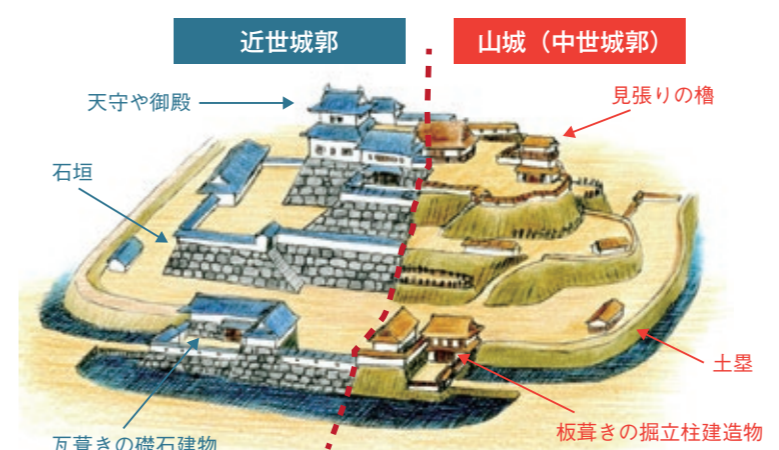
発掘調査で大発見！
 史料記録が少なく、さほど注目されていなかった棚底城跡。平成14年に倉岳町誌編さんの一環で始めた発掘調査で状況ガラリと変わります。城の中核と目されたI郭などで、岩盤に掘り込まれた柱の穴が多数発見されました。また14世紀後半から16世紀後半までの幅広い年代の陶磁器の破片も1,000点以上出土。これにより、館が何度も立て替えられ、長期間にわたって生活面として使用されたことが判明します。出土遺物の約60%が中国やベトナムといった外国産陶磁器が占めているのも大きな特徴と言えます。棚底城跡は有名な武将の城ではなく、群を抜いて大規模な城でもありません。ですが、島の城郭として時代ごとの変遷がはっきりと把握され、中世天草の政治・軍事の変遷を知るうえでの貴重な遺構として城跡そのものがよく保存されている点が評価され、国の史跡として認められました。



■発掘調査で大発見！
 史料記録が少なく、さほど注目されていなかった棚底城跡。平成14年に倉岳町誌編さんの一環で始めた発掘調査で状況ガラリと変わります。城の中核と目されたI郭などで、岩盤に掘り込まれた柱の穴が多数発見されました。また14世紀後半から16世紀後半までの幅広い年代の陶磁器の破片も1,000点以上出土。これにより、館が何度も立て替えられ、長期間にわたって生活面として使用されたことが判明します。出土遺物の約60%が中国やベトナムといった外国産陶磁器が占めているのも大きな特徴と言えます。棚底城跡は有名な武将の城ではなく、群を抜いて大規模な城でもありません。ですが、島の城郭として時代ごとの変遷がはっきりと把握され、中世天草の政治・軍事の変遷を知るうえでの貴重な遺構として城跡そのものがよく保存されている点が評価され、国の史跡として認められました。



【堀(ほり)】
 地面に溝を掘って敵が侵入できないようにしたもの。内部に水を張った水堀と水の無い空堀とがあり、山城の堀のほとんどが空堀です。土塁や石垣に対して平行に掘った堀を「横堀」といい、本丸などの曲輪に侵入しようとする敵を防ぎます。「縦堀」は、山の斜面(等高線)に対して直角に掘られた堀のことで、斜面を登ってきた敵の横移動を防ぐ効果があります。「堀切」は、曲輪と曲輪を独立させるため、山の尾根を遮断するために掘られました。

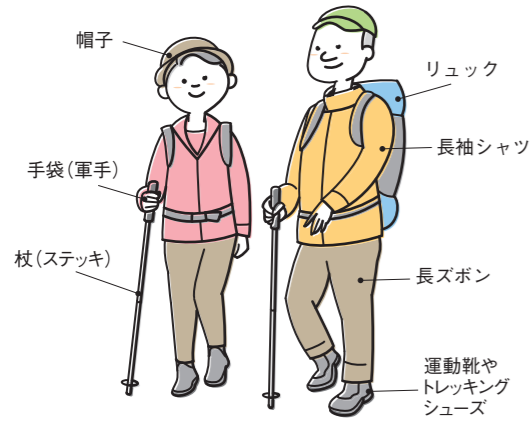


◆お城用語解説◆
 【山城(やまじろ)】
 山城とは、山に築かれたお城のこと。山を削り、盛り固めて堀や土塁、曲輪などで造成され、全体がほぼ「土」で築かれています。建物は木造の簡単なもので、「中世城郭」とも呼ばれます。
 対して、熊本城など天守のあるお城を「近世城郭」と言い、高い石垣に広大な水堀、瓦葺きの建物などを備え、平地や低い丘に築かれた石づくりの城です。

棚底城跡に行ってみよう!

棚底城跡は山城なので、長袖に長ズボン、運動靴やトレッキングシューズなど山登りに行くような服装で出かけましょう。各所に設置してある解説板やパンフレットで遺構を確認しつつ、丘からの眺望を楽しんで。

城跡の周辺には、大権寺石塔群や防風石垣群、コグリ（石造りの農業用水路）といった文化財もあります。



1 急斜面には簡易の階段があり、登りやすい 2 登ってすぐのポストには案内パンフレットが入っています 3 各所に解説板を設置



防風石垣群
棚底集落の家々の周囲を取り囲む防風石垣で100カ所ほどが現存している。冬場の強烈な北風(倉岳おろし)を防ぐため築かれました。

コグリ
棚底集落の地下に張り巡らされている石づくりの農業用水。集落各所で見られ、石垣の下に開口している通水口が目印。

大権寺石塔群
棚底城跡の菩提寺跡と言われ、南北朝時代から戦国時代までの石塔群が残っています。



棚底城跡を後世に伝える

棚底城跡は、戦国時代の天草を今に伝える重要な遺跡です。遺跡の保存だけでなく、地域の歴史を学ぶ場所として、分かりやすい遺構の展示や除草管理を行い、城と海の関係を感じられる城郭からの眺望の整備を今後行っていく予定です。



▲手順1 現代の土(表土)をはく

500年前の痕跡を求めて 発掘調査

現在も発掘調査が続いている棚底城跡。国指定史跡となつてからは、発掘する目的や方法、場所など国の許可を得て行っています。

8月から11月まで実施中の第7次発掘調査ではI郭西側の堀がどこまで続いているのかをトレンチ調査というやり方で行っています。



調査員の声

調査員の皆さん



橋本仁志さん

発掘調査は、地元住民ら5人と学芸員の計6人で進めています。3年目となる橋本さんは、「夏の暑さや蚊との闘いだけど、経験を重ねるごとに面白くなってきている。掘っていても感覚の違いが分かるようになってきた」と既にベテランの域。



森永恵美さん

自宅のある西原村で遺跡発掘の経験がある森永さん。ふるさとで発掘調査があると知り興味津々で調査員に応募した。「遺物が出てくると楽しいし、どんな生活を送っていたんだろうと想像力がかきたてられる」と話し、休憩時間も学芸員に質問していた。



▲手順2 移植ごてなどを使って丁寧に掘り進め、重要な遺物は出土位置や状況を記録し取り上げる

◀手順3 遺物や遺構を写真に撮り、平面図や断面図を作成する



▲今回の発掘調査では欠けていない土師器も出土。青磁など100点を超える陶磁器や堀の状況が明らかとなった

イベント情報

棚底城跡 国指定
10周年記念シンポジウム
天草が誇る戦国の城跡
棚底城跡の魅力を活かす

とき 11月9日(土) 午後1時30分〜午後4時30分
ところ 天草市民センター
(大会議室・展示ホール)

【基調講演】
●「天草最大の激戦地・棚底城―上津浦・栖本・相良氏と棚底城―」
講師・稲葉 継陽氏(熊本大学永青文庫研究センター長教授)

●「棚底城の構造と特徴」
講師・鶴嶋 俊彦氏(北部九州中近世城郭研究会会員)

【パネルディスカッション】
棚底城跡の整備と活用について、専門家や住民の皆さんと考えます。

【特別展示】
発掘調査で出土した15世紀頃のベトナム産陶磁器などの遺物と取り組みなどを展示・紹介。
圃文化課 ☎ 32-6784

天草の戦国時代展

開催中 (12月28日(土)まで)
ところ 本渡歴史民俗資料館

■ギャラリートーク
とき 11月30日(土) 午後1時30分〜午後3時30分

ところ 天草市民センター
展示ホール

講演 「それからの大矢野家」
大矢野種康氏
(熊本花園大矢野家当主)

定員 150人(先着)
申込方法 電話または資料館窓口で前日までに申し込んでください。
圃本渡歴史民俗資料館(月曜休館)

☎ 23-53353

